

# 施工方法と注意事項 (Iq システム本足場)

## 本 足 場

### 【1】本足場の組立基準

(1) 組立においては指定の部材を使用し、その使用部材を指定された方法で結合するものとします。

(2) 足場の高さ制限足場の組立高さは原則として45m以下とし、次によって下さい。なお、建地補強無しの場合で、建地の最高部からの距離が下表の値を超える建地については、鋼管を2本組にする等の措置を講じて下さい。

足場の巾 (mm)	本足場 (建地補強無し)	フレーム補強材を用いた本足場	
	足場の組立高さ	フレーム補強材を配置する 最下部からの組立高さ	足場の組立高さ
1219	1 5層+手摺高 (29.7m) 最上段の作業床までの高さ 28.75m	8層 (15.45 m)	2 3層+手摺高 (44.9m) 最上段の作業床までの高さ 43.95m
914	1 7層+手摺高 (33.5m) 最上段の作業床までの高さ 32.55m	6層 (11.65m)	
610	2 3層+手摺高 (44.9m) 最上段の作業床までの高さ 43.95m	—	

足場の巾 (mm)	支柱に作用する荷重の計算	
	積載荷重	足場の自重
1219	1 スパン 400kg 同時2層 連続スパン以外	前踏み巾木：4.5kg/1枚 後踏みメッシュシート：470g/m <sup>2</sup> 床付き布わく 500巾 1829L 15.7kg/1枚 240巾 1829L 8.6kg/1枚
914	1 スパン 370kg 同時2層 連続スパン以外	
610	1 スパン 250kg 同時2層 連続スパン	

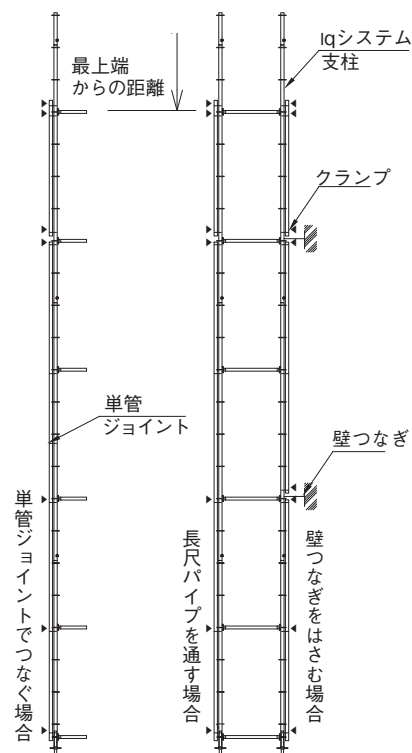
但し、積載荷重がこれを下回る場合、あるいは足場の自重がこれによらない場合においては、実際の組立条件に応じた強度計算を行い、その安全性を確認して下さい。

(3) 建地の鋼管2本組については、以下によります。

- 1) 緊結金具は自在型を使用して下さい。
- 2) 鋼管は足場用鋼管を使用して下さい。
- 3) 緊結金具の固定位置は、以下にして下さい。
  - ①足場用鋼管の上端及び下端
  - ②各層の腕木の位置付近
  - ③単管ジョイントの位置付近

(4) 基礎は十分な支持力を有するものとします。

地盤の状況に応じて敷板または敷盤等を用いて下さい。



◀はクランプの位置です

建地補強の例

# 施工方法と注意事項 (Iq システム本足場)

## (5) 支柱の間隔

支柱の間隔は、桁方向 1829mm 以下、梁間方向 1219mm 以下として下さい。

## (6) 支柱の継ぎ足し

支柱の継ぎ足しは、ほぞに支柱を差込み、ジョイント部はロックピンにより抜け止めを確実に行って下さい。

## (7) ジャッキ型ベース金具

支柱の最下端にはジャッキ型ベース金具(認定品)を使用し、各支柱のレベルを揃えて下さい。組立直後及び使用中はジャッキ型ベース金具のハンドルに遊びが無いよう確認して下さい。

## (8) 最下端の支柱

最下端の支柱には原則として下部支柱 (IqA- \*\* A) を使用して下さい。最下端の支柱の下部には根がらみを桁行方向、梁間方向それぞれに設けて下さい。但し、ジャッキ型ベース金具を敷板に釘止めする場合は敷板方向の根がらみを省略することができます。

## (9) 地上第一の布

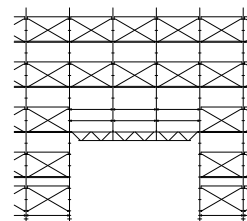
地上第一の布として、銅製布板または手摺 (IqC- \*\*) を 2 m 以下の位置に設けて下さい。

## (10) 布材

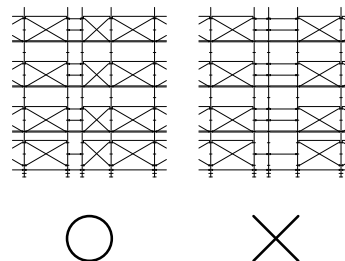
足場の前踏み構面には、手摺及び中さんとして手摺 (IqC- \*\*) を設けて下さい。

## (11) 先行手摺

足場の後踏み構面には先行手摺を全層全スパンに設けて下さい。但し、梁柵の直上 1 層については、先行手摺を設けないとすることができます。



また、スパン調整部等、やむを得ず先行手摺の取付ができないスパンについては、2 スパン以上連続させないで下さい。



## (12) 作業床

作業床の床材は床付き布わく(認定品)を使用し、垂直間隔 1.9 m 以下の各スパンにわたって連続に取り付けて下さい。床付き布わくは梁間方向の布材に架け渡して取り付けて下さい。床付き布わくのつかみ金具は確実にロックして下さい。

## (13) 壁つなぎ

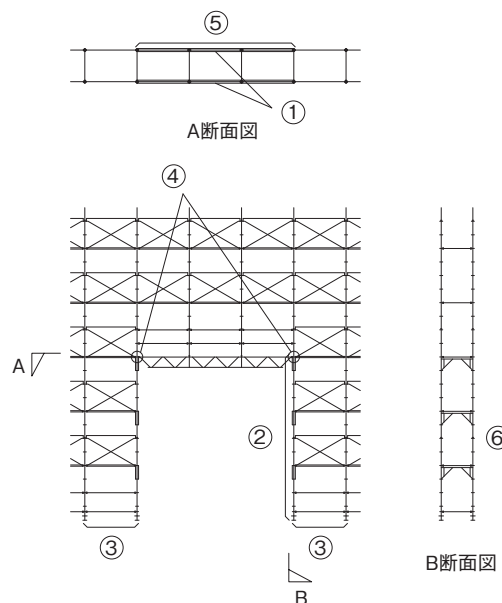
壁つなぎは、壁つなぎ用金具を用い、垂直方向 2 層 (3.8 m) 以下、水平方向 3 スパン (5.5 m) 以下の間隔で設けて下さい。壁つなぎの建物側への取付は堅固な箇所とし、足場側への取付は支柱と腕木の交点付近として下さい。また、足場にシート等を張る場合は別途、風荷重の計算を行い、壁つなぎを密に設ける等、その安全性を確認して下さい。



# 施工方法と注意事項 (Iq システム本足場)

(14) 梁枿 (IqG-\*\*) を用いて足場構面に開口部を設ける場合は、次によります。

- ① 梁枿は前踏みと後踏みの位置に2枚使用して下さい。
- ② 梁枿を用いた開口の高さは3層以下として下さい。
- ③ 梁枿を支持する支柱から外方に1スパン以上設けて下さい。
- ④ 梁枿を取り付けた支柱の両端支持部には壁つなぎを設けて下さい。
- ⑤ 2枚の梁枿間の水平面には床付き布わくを設け水平構形成して下さい。
- ⑥ フレーム補強材を用いる場合は、梁枿を支持する支柱にフレーム補強材を取り付けて下さい。

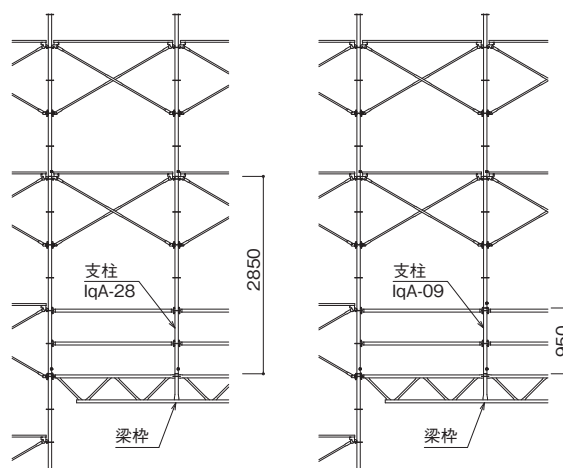


開口の巾	足場の巾 (mm)	梁枿上の足場の組立高さ	
		本足場 (建地補強無し)	フレーム補強材を用いた本足場
1.5 スパン	1219	9層+手摺高 (18.05m) 最上段の作業床までの高さ 17.1m	19層+手摺高 (37.05m) 最上段の作業床までの高さ 36.1m
	914	10層+手摺高 (19.95m) 最上段の作業床までの高さ 19.0m	20層+手摺高 (38.95m) 最上段の作業床までの高さ 38.0m
	610	14層+手摺高 (27.55m) 最上段の作業床までの高さ 26.6m	
2 スパン	1219	8層+手摺高 (16.15m) 最上段の作業床までの高さ 15.2m	15層+手摺高 (29.45m) 最上段の作業床までの高さ 28.5m
	914	9層+手摺高 (18.05m) 最上段の作業床までの高さ 17.1m	17層+手摺高 (33.25m) 最上段の作業床までの高さ 32.3m
	610	13層+手摺高 (25.65m) 最上段の作業床までの高さ 24.7m	20層+手摺高 (38.95m) 最上段の作業床までの高さ 38.0m
3 スパン	1219	5層+手摺高 (10.45m) 最上段の作業床までの高さ 9.5m	11層+手摺高 (21.85m) 最上段の作業床までの高さ 20.9m
	914	6層+手摺高 (12.35m) 最上段の作業床までの高さ 11.4m	13層+手摺高 (25.65m) 最上段の作業床までの高さ 24.7m
	610	9層+手摺高 (18.05m) 最上段の作業床までの高さ 17.1m	16層+手摺高 (31.35m) 最上段の作業床までの高さ 30.4m

# 施工方法と注意事項 (Iq システム本足場)

足場の巾 (mm)	梁枠及び支柱に作用する荷重の計算条件		
	積載荷重		足場の自重
	梁枠上	梁枠に隣接するスパン	
1219	800kg 等分荷重	1 スパン 400kg 同時2層 連続スパン以外	前踏み巾木：4.5kg/1 枚 後踏みメッシュシート： 470g/m <sup>2</sup> 床付き布わく 500巾 1829L 15.7kg/1 枚 240巾 1829L 8.6kg/1 枚
914		1 スパン 370kg 同時2層 連続スパン以外	
610		1 スパン 250kg 同時2層 連続スパン	

但し、作業の必要上これにより難しい場合においては、実際の組立条件に応じて梁枠及び支柱の強度の検討を行い、その安全性を確認して下さい。  
また、梁枠の直上には支柱 IqA-28 または IqA-09 を用い、ジョイント部が手摺の位置となるように組立を行って下さい。



## (15) 昇降階段

- ①足場には昇降階段を設けるとともに、2層以下ごとに踊り場を設けて下さい。
- ②昇降階段には手摺及び中さんを設けて下さい。
- ③階段開口部には階段開口部用手摺棒等を設けて下さい。

## (16) 墜落防止措置

桁行方向後踏み側には先行手摺を、桁行方向前踏み側及び妻側には、手摺及び中さんとして布材を掛け、労働安全衛生規則に従って下さい。

## (17) 物体の落下防止措置

高さ 10 cm 以上の巾木、メッシュシート等を掛け、労働安全衛生規則に従って下さい。



施工方法と注意事項 (Iq システム本足場)

# 施工方法と注意事項 (Iq システム本足場)

## 【1】本足場の使用基準

### (1) 許容支持力等

#### 1) 支柱

許容支持力 (kN / 1 支柱)	
本足場 (建地補強無し)	フレーム補強材を用いた本足場
9.6	16.0

#### 2) 先行手摺

許容水平抵抗力 (kN / 1 枚)
3.3

#### 3) 梁枠

型式	使用長 (mm)	スパン数	許容支持力	
			(kN / 1 枚)	(kN / 1 点)
IqG-1.5	2743	1.5	8.0	8.0
IqG-2	3658	2		
IqG-3	5487	3	12.0	6.0

#### 4) ブラケット

型式	許容支持力 (kN)
IqBH-36	3.375 (中央集中荷重)
IqBH-61	

#### 5) 積載荷重

(一社) 仮設工業会「くさび緊結式足場の組立て及び使用に関する技術基準」によります。

① 足場の最大積載荷重は、次表に示された値以下、かつ、同時積載は2層までとして下さい。

1 層 1 スパンあたり	
同一層連続スパン載荷	250kg
同一層連続スパン以外の載荷	400kg

② 最大積載荷重は、床付き布わくの許容積載荷重を超えないで下さい。

③ 梁枠で構成された開口部上方の足場の全積載荷重は 800kg 以下として下さい。

④ 梁枠上の積載は均等に配置して下さい。

